オルトボックス･オーナーズ･マニュアル

アバランチェトランシーバー

S1+

www.ortovox.com

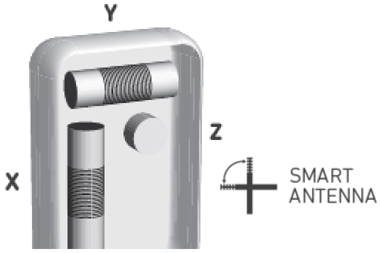
ORTOVOX

ORTOVOX S1+

早くて簡単、正確なピンポイント捜索、これがOrtovox S1+の特徴です。雪崩発生時、事実上、生存の可能性はアバランチェトランシーバー、ショベル、プローブを携帯した仲間による素早い捜索と救出によります。ほとんどの場合、救助隊を呼びに行っていては手遅れです。雪崩の警報と安全なルート選びに注意すること。常にS1+トランシーバーを携帯し、ショベルやプローブ等Ortovox Safety装備を必ず携行すること。S1+に付属された取扱説明書をよく読み、使い方を十分に理解し、雪崩時の捜索手順を定期的に練習して下さい。

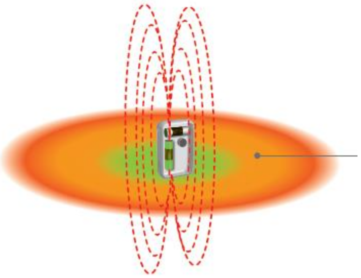
Ortovox製品情報や、安全関連情報はOrtovox Webサイトにあります。(www.ortovox.com)
Ortovoxと共に安全で素晴らしいツアーをお楽しみ下さい。

3アンテナテクノロジー　(X、Y、Zアンテナ)



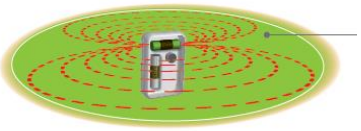
捜索中は3アンテナ全てが使用されます。XとYアンテナが距離と方向の指示に使用され、Zアンテナは単にファインサーチに使用されます。

ORTOVOXのS1+、3+、Zoom+は、マーケットで唯一、スマートアンテナテクノロジーを使用してアンテナの位置を分析でき、XとYアンテナ両方で送信するビーコンです。



遭難者の送信レンジを2倍にまで増やし、発見するのがかなり早くなりました。

スマートアンテナがないと、送信アンテナ(Xアンテナ)が垂直にシグナルを放つだけで、サーチエリアで最小のレンジになり、視界が乏しくなります。よって、スマートアンテナがない送信者の位置決定が難しくなります。



＜スマートアンテナ付＞

視界がとてもよく、特許付きのスマートアンテナテクノロジーは、視界が悪かった問題をクリアにしました。位置センサーが、雪崩時にビーコンの位置を分析し、自動的にYアンテナへ切り替わります。その結果、アンテナが水平線上に再び送信し、ほぼ最大レンジまでレンジを拡大します。こうして、短い時間で遭難者を発見できます。

RECCO

RECCO(電波受信特殊反射板)内蔵: プロフェッショナルレスキュー隊が、素早く遭難者を発見できます。世界中700カ所以上のスキーエリアやレスキュー隊によりこの技術が使われています。

S1+の決定的な利点

・アンテナ3本付き、センサーコントロールの雪崩スキャナー
・大画面に遭難者の位置を表示
・正確なシグナル分離、マーキング機能（5シグナルまで）
・複数人が埋まった時の特別なサーチモード（4+）
・スマートアンテナ：ベストな送信アンテナに自動的に変わる
・広範囲：55mまで
・円形のイラストが付き、直観で能率のよい位置確認
・サーチストリップ幅：50m
・パートナーチェック（頻繁にチェックする）
・傾斜計
・自動送信スイッチオーバー（次の雪崩時）
・たった2本の単4アルカリ電池
・自分専用にカスタマイズ
・アップデートオプション

各部の名称

1. ON/ OFF スイッチ
2. OKボタン（マーク付け／マーク解除ボタン） ）
3. メニューボタン
4. 送信モニターライト
5. センサー
6. 遭難者の位置
7. 方向表示
8. 捜索人の位置
9. 距離表示
10. スピーカー
11. 電池Box（裏側）

テクニカルデータ/Ortovox　S1+

機　能	デジタル（音による緊急操作付き）
ケース	人間工学的耐衝撃、耐防水型
形状寸法	120×80×30mm（閉じた状態） 215×80×30mm（開いた状態）
周波数	457　kHz、許容誤差±80Hz スタンダードな周波数を発信するアバランチェトランシーバーの電波を全てキャッチします。 欧州規格 EN300 718 の厳しい要求条件を上回っています。
デジタル受信距離	55m迄受信可能
捜索幅	50m迄
使用温度	−20℃～+45℃ （*ビーコンが濡れていても、決して暖房機や温風、ヘアードライヤー等で乾かさないで下さい。破損の原因となります。）
使用電池	単4アルカリ×2本　（*充電式電池やリチウム電池は使用しないでください。）
送信	約 250 時間
受信	約15時間
重量	約235g（電池含む）、収納ケース約95g

ユーザー情報

本機は FCC 規則第 15 条に適合する機器です。その使用は以下の 2 つの条件を前提に許可されています。
(1) 有害な電波障害を引き起こさないこと。
(2) 誤作動を引き起こす恐れのある電波妨害下でも所要の機能を発揮すること。
無線機器の使用説明書には違法な変更または改造を行うと当該機器を使用する権利が失効する旨の警告を記載することが義務づけられています。本機はFCC規則第 15 条に対応する無線機器の使用制限規定に適合することが試験で確認されています。これらの規定は住宅設備における有害な電波妨害に対する保護を規定したものです。本機は無線周波エネルギーを発生し、それを使用し、かつ放射する能力があるので指示に従って据付、使用しないと無線通信を妨害する恐れがあります。ただし、特定の施設内で無線妨害を起こさないという保証はありません。本機がラジオやテレビの受信を妨害する場合は以下のような対策を講じてみて下さい（妨害の有無は本機の電源をオフにし、再度オンにすることで確認できます）。

- 受信アンテナの方向または位置を変えて下さい。
- 本機と受信装置の間隔を離して下さい。
- 受信装置を接続している電源回路とは異なる回路のコンセントに本機を接続して下さい。
- 販売店または経験のあるラジオ/テレビ技術者に相談して下さい。

保証期間の延長

お持ちのS1+をオルトボックスのウェブサイト（www.ortovox.com/registration）にて登録すると、
保証期間は、購入した日から2年より5年に延長されます。
お好みによって、アップデートについてやS1+に関する最新ニュースを
定期的にお伝えします。

＊手続きが難しい方は、マジックマウンテン発行の保証書に従って下さい。
その際は必ず保証書、領収書を保管していなければなりません。

キャリーバッグの装着方法

キャリーバッグは、少なくとも1枚衣服を着た上に装着、また身体の近くに装着して下さい。
気温が高い時は、ジッパーのあるパンツのポケット
(縫い付けポケットではなく)に入れて持ち運ぶこともできます。

⚠ ペースメーカーを装着されている方は、ご使用の際ペースメーカーの
製造元説明書や処方医の診断に従って下さい。
また装着する場合は身体の右側に3+を付けて下さい。

電波干渉(送受信の妨害)

送受信の妨害は、嵐、リフトや電源システム、ラジオ、携帯電話や他の電気器具からの妨害によって起きます。携帯電話やラジオは、捜索中、電源を切っておいて下さい。2つのトランシーバーと、金属、ラジオ、携帯電話や磁気のあるもの等は、少なくとも50㎝は離しておいて下さい。

スイッチON

時計回りにスイッチつまみ(1)を押しながら 90° 右に回し、「ー」にすると ON になります。

ウェルカムスクリーンが表示され、自動的にセルフテストが
始まります。

問題が無かったら、フタを閉じます。すると、送信モードに
なり、送信ライトが点滅します。

セルフテスト

・送信
・受信
・センサー
・電池残量

もし、上記のようなメッセージや他のエラーメッセージが表示されたら、
障害物の無いところで再びトランシーバーを開いてセルフテストを
実行してみて下さい。

その時、近くに他の送信者が居ないことを確認して下さい。

障害物(携帯電話、ワイヤレス装置等)の電源を切るか離れた所に
移して下さい。それでもうまく機能しない場合はご購入先または
マジックマウンテン社に修理を依頼して下さい。

送信

セルフテストが終わったら S1+を閉じて下さい。
送信モードになると、送信ライト（4）が点滅します。

S1+を閉じている時にスイッチを ON にすると、セルフテストの
結果は音でわかります。

バッテリー残量によって、音が異なります。

（バッテリー残量） 50～100%： 大音量 2 回
50%以下%： 大音量 1 回＋小音量 1 回
25%以下： 大音量 1 回＋小音量 1 回＋長音量

セルフテストにより、完全な状態でない場合、
警告シグナルが一定間隔に鳴ります。

スイッチOFF

スイッチつまみを押しながら中央に 90°手前に戻します。
「｜」にすると OFF になります。

警告

エラーメッセージ

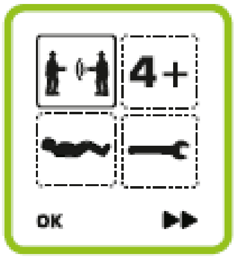
セルフテストでは送受信機能、センサー、電池残量テストされます。
エラーの場合、チェックされた機能アイコンの横に三角の警告マークが画面に表示される。さらに、警告音が鳴ります。
エラーメッセージはすぐ近くに送信モードの雪崩トランシーバーや、携帯電話、ワイヤレス装置、大きな金属部品、強力な磁力の土地等により表示されることがあります。

主に重要なエラーメッセージの意味：

E001:送信者	E004:回転角度センサー
E002:受信者	E005:回転角度センサーと送信者
E003:送信者と受信者	E008:傾斜センサー

※セルフテストを再び行う場合は、一旦メニュー画面からスイッチオフにして数秒経過後に
スイッチオンにして下さい。その際、近くに他の送信者がいないか、又障害物（携帯電話やワイヤレス装置等）がないか、それらから離れた場所に移動するなどを確かめて下さい。

パートナーチェック

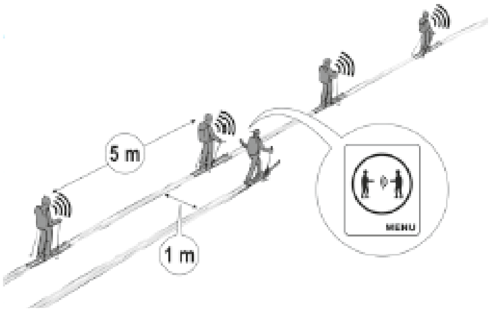


ツアーを始める前には毎回、限られた範囲内でパートナーチェックを行って下さい。

パートナーチェック機能は、周波数（457kHz）や送信シグナルの幅、シグナルを送信する時間をチェックするのに使用されます。

（日常のパートナーチェック）

グループリーダーは、メニュー内の
“パートナーチェック”機能を選択します。



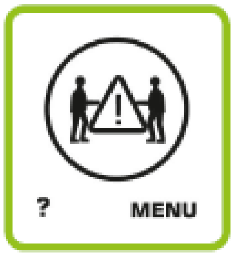
メンバーは、S1+を“送信”モードに切り替えて、一人ずつ
5m間隔で離れていきます。

最低1mは、リーダーから離れて下さい。

もしリーダーのS1+が、それぞれのトランシーバーからスピーカー音や画面にシグナルをキャッチすると、送信機能がテストされ、リーダーの受信機能が正常であることがわかります。

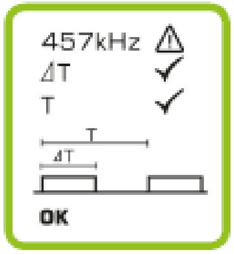
（エラーの場合）

エラーサインが表示されたら、チェックしたビーコンに異常があるということです。



OKボタン（2） を押すと、考えられるエラーが表示されます。

- 送信周波数（457kHz）
- 送信時間
- 一回の時間の長さ

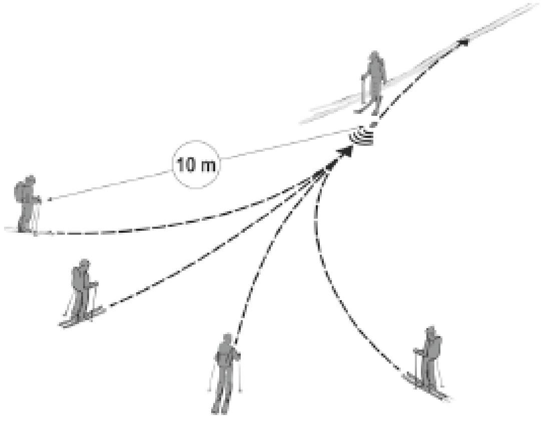


再びOKボタン（2）を押して、パートナーチェックに戻ります。

（受信機のチェック）

＜受信機のチェック＞

●参加者全員がグループリーダーから10m離れて、S1+を
　受信モードにセットします。
●グループリーダーは自分のS1+を送信モードにセットして閉じます。
　目の前（地面）に置きます。
●メンバー全員がリーダーのシグナルを受信します。
　（音や画面を見てわかります。）
　メンバーはこのシグナルに近付き、位置測定をします。
●メンバーのトランシーバーの受信機能と送信機能が
　チェックされます。



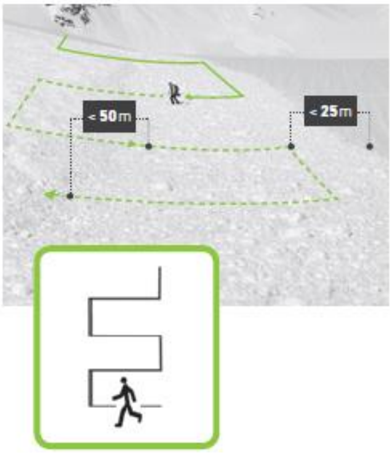
受信＝捜索

S1+を開くと、捜索状況が自動的に表示されます。

シグナルサーチ

受信域にシグナルがない場合、S1+はシグナルサーチをするよう誘導します。画面には、サーチストリップに沿って走っている捜索人が表示されます。

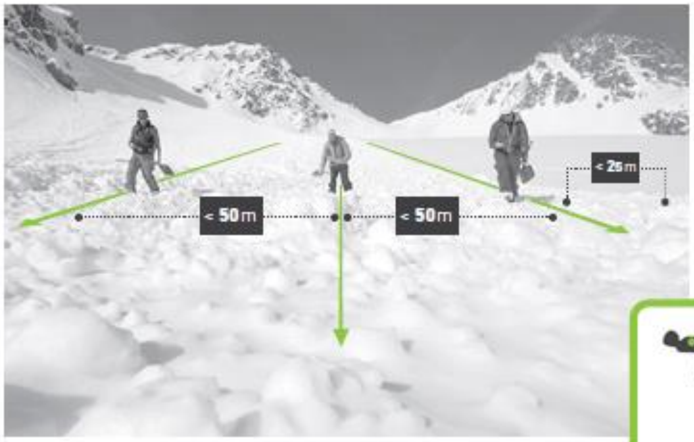
雪崩のデブリを50m幅（約50～60歩）にジグザグに歩いて捜索します。それ以上を超えないで下さい。
雪崩の端からは25m以内を保って歩いて下さい。

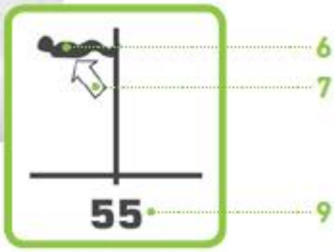


＜遭難者の地点が不明＞
失踪の地点が分からない、又は目標物が明らかでないとき、サーチエリアは雪崩の流れの方向に、この地点より下へ選択を絞って下さい。これで時間を節約できます。

捜索者が複数いる場合

捜索する人達の間隔は50mです。雪崩の端への距離は25mを超えてはいけません。





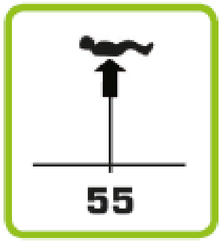
コースサーチ:概略捜索

コースサーチ中は、水平に使用して下さい！

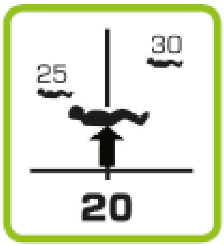
遭難者(送信者)まで約55mの距離で、方向指示の矢印(7)、位置(6)、距離(9)が表示されます。
垂直のライン上に遭難者を合わせ、それを目指して近づいて行きます。

近づくと、スピーカーからの音が早まり、音が大きくなります。表示の距離数が小さくなり、近づいているのがわかります。

10mまで近づいたら、ゆっくり動き、より正確な情報を得ます。



仮に遭難者までの距離が20mまで近づいたときに、もう2人の遭難者がいることがわかると、図のように25mと30mのところにいるという小さいアイコンが表示されます。最も近い人が大きいアイコンで表示され、最初のターゲットとされます。
捜索者(S1+を使用した)が何人かいても、各シグナルが他の捜索者にも同様に表示され、同時に捜索できます。



ファインサーチ

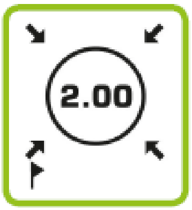
クロス線をたどりながら正しい位置測定をします。その時、最短距離が表示された所で決定、S1+を同じ方向にキープします。

S1+は、円形表示の特許を取得しました。とても簡単に、素早く、正確にピンポイントの位置を表示します。

ピンポイントサーチは、2.5mのところから自動的に始まります。
捜索者が遭難者に近づくと、矢印が円の中心を示す矢印が表示されます。また、近づくほど音が早くなります。

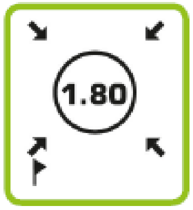
S1+を正面に持ち、ピンポイントサーチ中はS1の向きを変えないで下さい！

捜索者が遭難者に近づき、2.0mの距離まで近づくと円が小さくなります。
矢印は円の中心を示し続けます。



逆に、離れていってしまうと、円は大きくなり、遠ざかるにつれて矢印は外側を示すので、方向が間違っていることに気付きます。
しかし、それまでに一番近づいた位置の情報は記憶され、内側の薄い円で示されます。

再び捜索者が遭難者に近づくと、円はまた小さくなり、矢印も内側へ向って示すので、距離が近づいていることがわかります。

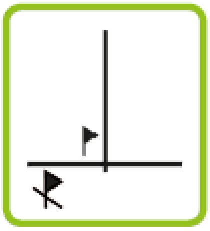


0.3mの範囲（深さ）に埋まっていると、これ以上数値は小さくならず、円もこれ以上小さくなりません。

マーク（位置の決定）

マークは、3m以下から付けられます。

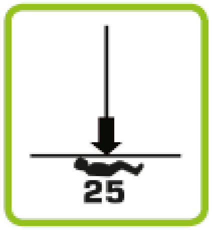
埋まっている人をマークするには、“OKボタン”（2） を一回押すと、フラッグが表示されます。



マークを取り消す

最後にマークした分は、“OKボタン”（2）を２秒長押しすると取り消すことができ、すぐに、新しいピンポイントサーチが始まります。
左下に斜線が付いたフラッグは、“フラッグ取り消し可能”を意味します。
２人目、３人目の遭難者が半径3m以内にいる場合、最初に見つかったシグナルは消えません。この場合、他の遭難者のピンポイントサーチが続いて行われます。
円形のアイコンがその特定する距離を示し、状況が変わります。

遭難者が後ろにいる場合



遭難者のアイコンが自分の立っている後ろに現れたら、180°向きを変え、
その遭難者のアイコンの方へ向かって下さい。

プロ―ビング

最も近い距離が測定された地点で直接位置を決定するには、
25㎝間隔で格子状に、注意深くプローブで探ります。

雪の表面にプローブを垂直に刺します。

位置が分かったら、プローブは雪上に
刺したまま残しておきます。

掘り出す

埋まりが浅い（1m以下）場合、プローブに沿ってすぐに掘り始め、
空気路を作ります。

埋まりが深い場合、埋まっている深さに応じて、斜面を下りながら
掘っていきます。

埋まった深さ（1）をプローブから読みとり、その深さに応じて
斜面を下りながら、V字にショベルで掘ります。
捜索人が複数いる場合：上で掘り出す人は、ブロックを切り崩し、
後ろの人は雪をどかして、できるだけ早く空気路を作ります。

＊クリアリング機能付のショベルを使用すると、貴重な時間を節約できます。

深く埋まっている場合

3ｍ以上深く埋まった場合、OKボタンを押すと7ｍ以下の距離から
ピンポイント捜索の円形アイコンが現れます。

正しい位置をクロス線を使って決定します。

遭難者を約7ｍの深さまでマークすることができます。
もっと深く埋まった場合、遭難者の位置は最も近い距離表示で
決定されます。

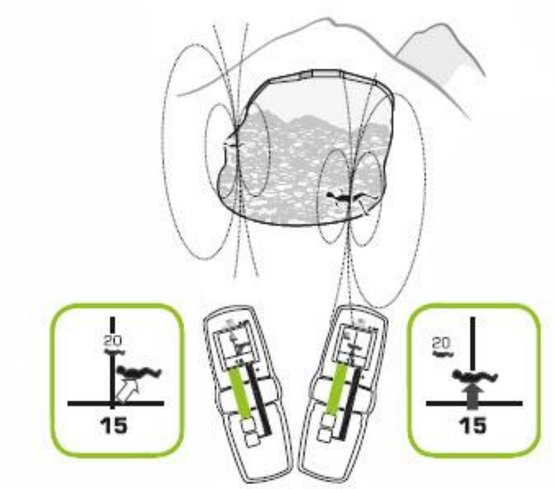
そのあと、画面上の全ての遭難者が位置付られマークされます。

2人の捜索者が2人の遭難者を捜索するシュミレーション

S1+の画面は、遭難者（送信者）の関係する位置、距離を
示します。

表示された遭難者それぞれが直接位置付けられます。

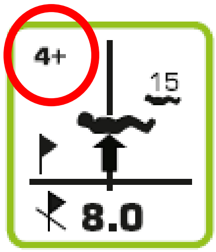
捜索人が2人いる場合、別々に遭難者の位置が分かり、救助の
時間をセーブできます。



捜索人１ ＆ ２

複数人が埋まった時

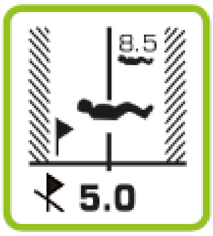
4個、又はそれ以上の送信シグナルがある時、左上に“4＋”が表示されます。



メニューボタン（3）で4+モード（5m内範囲の捜索）を選択して、
OKボタンを押して下さい。

＜4+機能＞

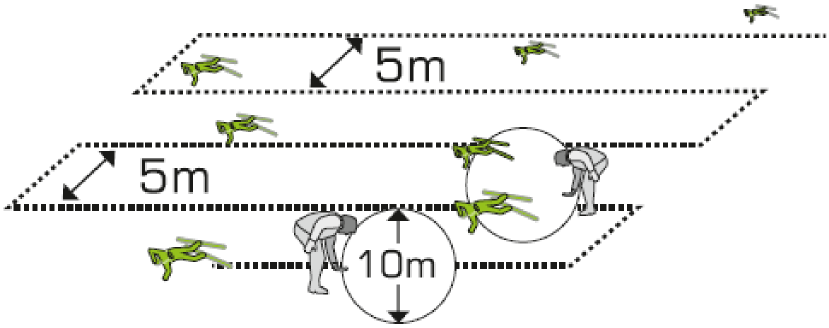
4＋を選択すると、一番近くの遭難者を制限幅なく（約55mの範囲で）
位置付けます。
最初のシグナルをマークした後、捜索幅は自動的に約5mに制限されます。



この5mのマイクロサーチストリップ幅への制限は、画面の両サイドに
黒い斜線で表示されます。

＜遭難者の位置を捜索する方法について＞
マイクロサーチ・ストリップ

4+機能を選択し、位置測定が始まります。
最初の遭難者の位置がわかり、救助されてから、サーチルートが5mごとに設定されます。
雪崩エリアでは、このようにして遭難者に捜索されます。
S1+は、現在直径最大10mの円周範囲を読み取り、この円の中に遭難者が表示されます。

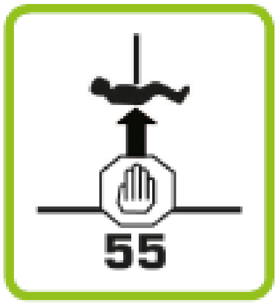


シグナル分離

S1+は、今日の雪崩ビーコンの中で最新の技術を備えています。このユニークな表現や、遭難者の位置を見て確認できる画面、進んだシグナル分離技術は、1人、又はそれ以上の遭難者を探すのにとても役に立ちます。それにもかかわらず、捜索、特に複数遭難者や、自然の背景において、重要な状況に注意して下さい。

実際に雪崩事故の際、たいてい2人以上が埋まり、同時にビーコン送信が始まります。時々、予想なく2つ又はそれ以上のビーコンがちょうど同時に同じ間、波動を送信します。
送信された2つのアナログビーコンのシグナルは、長い波動期間のある2つのアナログビーコンや、デジタルビーコン送信は、同時に重複したり混合します。物理的な理由から、たいていそれらを離すことはできません。そのような重複時、送信者のシグナルは計測されず、アナログやデジタル技術を使っても計測できません。

このため、ストップサインが数秒現れます。手のストップマークと距離数"55"の表示が消える(2 つの波動が離れる)まで待って、それから位置測定を続けて下さい。



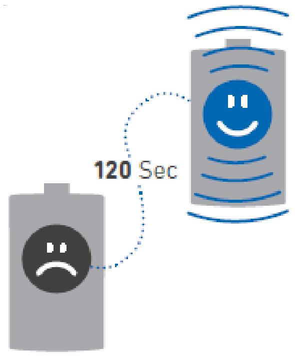
＊アドバイス:
遭難者の人数がわかってもわからなくても、安全のため、もっと埋まっている可能性のある人を見つけ捜し出すために、前記の方法の1つを使用すること。

自動送信スイッチオーバー(切替え)

２回目の雪崩の時、自動的に送信スイッチオーバー(切替え)になります。

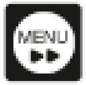
S1+が120秒間動かない場合、どんな操作モードにあっても、自動的に送信モードに切り替わります。

(10秒間警告音が鳴ります。)これによって、捜索中の人が２回目の雪崩に巻き込まれた場合でも、他の人に捜索されることになります。



多才な機能を備えた S1+

メニュー選択



メニューボタンを3秒間押す。→メニュー―ボタンを何回か押し、各メニュー（機能）を選択（右方向に一つずつ変わります。）

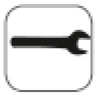
OKボタンを押す。

※捜索モードからメニュー画面に切り換える時は
3秒程度の長押しになります。

パートナーチェック：限定された範囲（約5m）

3人以上の遭難者を捜索

スキャン



設定

状態の表示

4人又はそれ以上の遭難者を感知すると のマークが現れる。

捜索者は、メニューから機能を選ぶよう指示される。

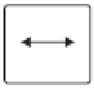
電池残量が少ない場合の警告

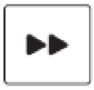
エラーの場合の警告

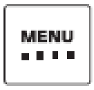
自動送信スイッチ（セーフティースイッチバック）がOFFになっている場合の警告

ソフトキー

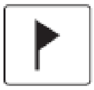
メニューキーと OKキー とにはいくつかの機能があり、これらのソフトキーは大事な機能を示します。

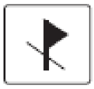
 明るさを調整

 メニューを前に戻す



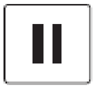
メニュー選択

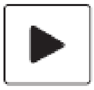
 ピンポイント位置のマーク確認

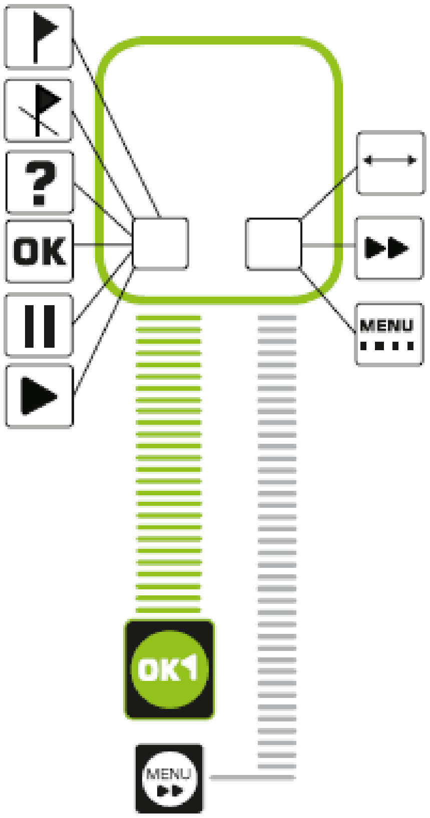
 マークしたトランシーバーの位置の解除

パートナーテスト中に発生した送信エラーの質問

サブメニューへのアクセス＆選択した機能を確認

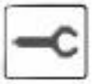
 測定した傾斜を記録する。

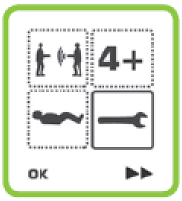
 新しい傾斜の測定を実行する。



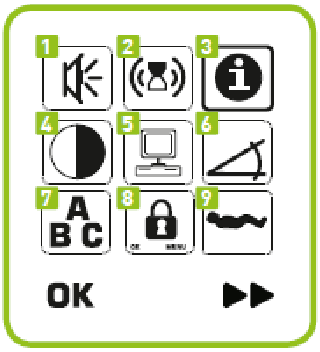
設定

メニューボタンを押し、“設定”マークを選択し、さらに以下8個の項目を選択します。





①スピーカー
②自動送信スイッチ切り替え
③ビーコンの本体番号、ソフトウェアバージョン、受信機能と電池残量
④画面証明設定
⑤アップデート
⑥コンパス
⑦ウェルカムスクリーンの情報登録
⑧捜索



＜スピーカー＞

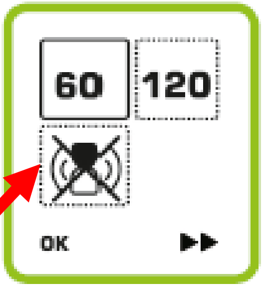
音量をON又はOFFを選べます。

＜自動送信への切り換え＞

60 秒（又は 120 秒：設定してある秒数による）たっても
動かない場合、自動的に（どんなモードであっても）送信モードに
なります。直前に、警告シグナルが10秒間鳴ります。

購入時は 60 秒で設定されています。

また、この自動送信への切換えは、OFF にもできます。



★注意★
スイッチが OFF に設定された場合、だれかが次の雪崩で埋まっても自動的に送信スイッチには切り換わりません！

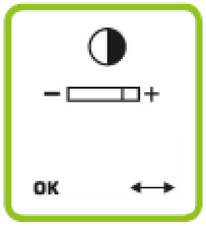
＜本体の製造番号・ソフトウエアバージョン・受信機能・電池残量＞

サブメニューに表示されます。

＜画面照明設定＞

“メニューボタン”(3)を押して明るさを調整します。

また、“OKボタン”(2)を押すと設定を完了します。



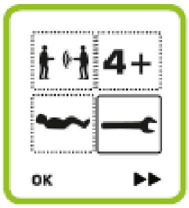
＜アップデート＞

S1+は、連結インターフェースと追加の連結スキャナーによってコンピューターとつなぐことができます。

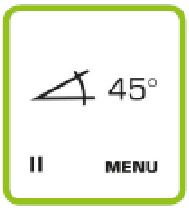
- 更新/アップデート
- トランシーバーの機能の印刷や管理

※ アップデートを依頼される場合は
（株）マジックマウンテンにお申し込み下さい。（有料）

＜傾斜度の測定＞

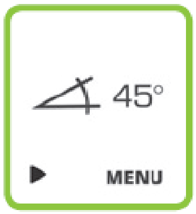


S1+を開き、“設定”機能からメニューボタンを押して
“傾斜度の測定”を選択します。



雪上にS1+の上部を正しく置き、スロープセンサー（±1°）が正しく測定するまで待ちます。

測定が決まったらOKボタン（2）を押して測定結果をキープします。



もう一度OKボタン（2）を押すと、新しい測定が始まります。

ウェルカムスクリーンの設定

スイッチをONにしてすぐに現れるウェルカムスクリーンは、個人で名前や住所、電話番号、e−mail を入れたりして内容を変えられます。

“設定”メニューの中の“ABC”を選択します。

S1+を左右に傾けることによって、文字（英数字・記号）を進めたり戻したりします。一文字ずつ OK ボタンを押して登録していきます。
S1+を前後に傾けると、文字が削除されてしまうので注意して下さい。

＊少しの傾きで文字が動いてしまうので、机の上など平らな所にS1+を置いて設定操作することをお勧めします。

登録は、5 行（例：名前・住所・電話番号・e−mail）作成できます。
OK ボタンを押して完了します。

保管

ツアーを終えたら S1+を身体から外し、電源をオフにして風通しの良い乾いた場所に保管してください。（電池 BOX 内の電池を抜く事をお勧めいたします。）本機は内部部品の結露を防止する設計になっています。本機を数年にわたり機能する状態に保つには携行ストラップと雪崩トランシーバー本体を自然乾燥させるようお勧めします。お手元のトランシーバーが濡れていても、ヘアドライヤーなどで直接乾燥させることは止めてください。直接加熱すと永久損傷を招くおそれがあります。雪崩トランシーバーは過度の湿気や熱から保護してください。電池は低温にさらさないように保護してください。

電池の交換（電源を切って行って下さい。）

本体裏の電池 BOX からネジを外し、電池を取り出します。
必ず新しい単４（AAA アルカリ）電池（1.5VLR03）を２本入れて
下さい。+とーが正しく入っているか、確認します。

＊電気・エレベーター・発電装置・ラジオ・携帯電話・他の電化製品により、送受信が妨害されるので、捜索中は携帯電話やラジオの電源は切っておきましょう。２つのトランシーバーを、金属やラジオ、携帯電話、マグネット等から最低でも50cmは離しておきましょう。

＊ 充電式電池やリチウム電池は使用しないでください。
また、オキシライド電池もお控え下さい。
*電池の交換後は電子コンパスの角度修正が必要です。

ストラップ

トランシーバーから保護ケースを外し、ストラップを付けます。

洗濯時、保護ケースを外し、代わりにストラップを付けることができます。
安全のため、装着時は付属の保護ケースを使用することをお薦めします。

重要事項

夏季は雪崩トランシーバーから電池を抜いてください。電池の液漏れによる損傷があるとオルトボックスの工場保証は無効になります。（ニカド電池などの）充電式電池は絶対に使用しないでください。充電式電池は動作電圧がかなり低いので電波の有効範囲が短くなり、使用可能時間も限られてきます。さらに、充電式電池は不良品を見つけにくく、不良品は充電するといったんはフル電圧になりますが、直ぐにゼロ電圧に下がってしまうことがあります（これは生死にかかわる問題です！）
電池の交換が遅れると（容量<10%）、マイクロプロセッサ、距離表示および方向表示がオフ状態になります。このような場合、本機に残されている働きは約20時間の非常アナログ送信と1時間の非常受信に限られてしまいます。

保証

新しいORTOVOXトランシーバーを購入の際、保証カード（マジックマウンテン社発行）と、購入時のレシートで、購入日から2年間、ORTOVOXの保証が受けられます。
さらに、オンライン登録をすると保証が3年間追加され、合計5年間の保証が受けられます。
登録は、www.ortovox.com/registration にて行います。
＊手続きが難しい方は、マジックマウンテン発行の保証書に従って下さい。
その際は必ず保証書、領収書を保管していなければなりません。

電池収納部分にあるシールを見て下さい。

保証期限：例えば保証期間が 2018 年となっている場合（右図）、
また、2018 年までに点検を行うことをお勧めします。
1.057 という数字は、製造バッチを特定する番号です。

保証のうち、欠陥は無償で修理または同じデザインのものに交換されます。誤った取り扱いや装着で生じた破損は除外されます。また電池漏れによる破損の場合、保証は無効となります。電池は保証から除外されます。当然の結果生じた破損の保証は、明らかに除外されます。保証修理を行った際は、保証義務を延長しません。また、新しい保証期間もありません。

＊日本国内においては、マジックマウンテン社発行の保証書が必要となります。

アフターサービス

オルトボックスS1+は救助用機器です。したがって、いかなる時でも正常に作動することが必須条件です。本機が完璧に機能するかどうかは人命にかかわってきます。試験シールに記載してある日付を目安にお手元の機器は、工場調整をぜひ受けて下さい（有料）。その際、夏季に返送すれば冬のシーズン到来時には試験済みの機器を手にすることができるでしょう。
修理または工場調整を依頼するには、お手元のオルトボックス雪崩トランシーバーをお買い上げ販売店にご依頼下さい。

輸入販売元（株）マジックマウンテン

〒352-0011　埼玉県新座市野火止2-8-5
TEL：048-480-0088　　FAX：048-480-0089
http://www.magic-mountain.jp